

令和4年度第2回いわて県民情報交流センター（アイーナ）指定管理者選定・評価委員会
議事録

日時

令和4年9月14日（水） 14:00～16:30

場所

いわて県民情報交流センター（アイーナ）会議室703

出席者

区分	所属	職名	氏名	備考
委員長	公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部	教授	吉野 英岐	
副委員長	一般社団法人 岩手県建築士会盛岡支部	副支部長	武田 裕次	
委員 (五十音順)	一般財団法人北海道東北 地域経済総合研究所	主任研究員	小杉 雅之	
	岩手弁護士会	弁護士	佐藤 あすか	オンライン
	認定NPO法人 a c c o m m o n	理事長	成田 礎野美	
	C o a c h i n g O f f i c e	代表	平野 順子	
	特定非営利活動法人 陸前高田まちづくり協働センター	理事長	三浦 まり江	オンライン
指定 管理者	統括グループ	統括責任者	佐藤 渉	
		維持管理業務 統括責任者	佐藤 正崇	
	運営グループ	運営業務統括責任者	藤澤 剛彦	
		運営業務責任者	坂野 敬	
	維持管理グループ	維持管理業務責任者	田中 直樹	
		鹿島建物総合管理(株) 東北支社建物管理部長	菅野 清志	
	清掃グループ	清掃業務責任者	田中 義夫	
	警備グループ	警備業務責任者	大坪 隆行	
事務局	岩手県環境生活部 若者女性協働推進室	特命参事兼 連携協働課長	下川 知佳	
		特命課長	佐藤 宏昭	
		主査	八重樫 恵美	

傍聴者

なし

1 開会

2 挨拶（下川特命参事兼連携協働課長）

3 議事（進行：吉野委員長）

（1）指定管理業務の評価について

ア 評価の実施方法について

イ 事前評価結果について

（事務局から資料1により説明）

（質問等なし、事務局案のとおり評価を進めることとなった）

ウ ヒアリング（評価項目①～⑤について、項目毎に質疑応答）

（指定管理者から評価項目「①快適な利用環境の創出」の実績等について説明）

【質疑応答】

吉野委員長 説明があったスライドドアプレートとは、どういったものか。

指定管理者 平時は緑の表示になっている。エマージェンシーのときに、室内を目視により確認した後、赤にする運用ルールになっており、避難者の取り残しがないようにしたものである。

（指定管理者から評価項目②「利用者の声の反映／県民参加型の施設運営」の実績等について説明）

【質疑応答】

平野委員 県民プラザの福祉施設の商品の代理販売やDVD販売について、売上を把握していたら教えてほしい。

指定管理者 岩手県立盛岡峰南高等支援学校の商品は、年間で23万7,000円ほど売れており、全体の売り上げの34%を占めている。その他、大船渡市の就労継続支援B型作業所かたつむりの商品については、10万6,000円ほどの売り上げで、全体の15%を占めている。全体では68万円ほどの売り上げを記録している。

DVDは年間1、2枚程度の売り上げで、昨年度は2,070円の売り上げとなっており、全体の0.3%を占めている。

佐藤委員 Webミックスとは、これまでの紙媒体からQRコードを通じてインターネットで、催事案内の変更を見られるという理解でよろしいか。

指定管理者 お見込みのとおりである。コロナ禍前は、変更がない前提で紙媒体を作成していたが、コロナ禍でイベントの取りやめがとて多くなり、2カ月に一回発行している印刷物にどう最新の情報を反映させるか課題があった。このQRコードから最新情報を確認してもらえば、変更になった内容のほか、オンライン申し込みの方法など紙媒体だけでは表現しきれない部分もインターネットを融合させることにより、より分かりやすくなるメリットがある。

- 吉野委員長** QRコードがついてない催事は、何か理由があるのか。
- 指定管理者** この取組の案内をして、直接主催者からQRコードの提供を受けるほか、こちらでQRコードを作成してよいか確認しているが、100%対応いただける訳ではない。今後は、掲載率を上げていきたいと考えている。
- 吉野委員長** ヒューマンギャラリーで紹介している幸福な未来を作る活動をしている人物とは誰か。
- 指定管理者** 昨年度は株式会社幸呼来 J a p a n の代表取締役石頭悦さんを紹介した。端切れで新たな価値を創造する取組や授産施設活動もしていることから、石頭さんの試みや想いについて、展示やホームページに掲載している。コロナ禍でなかなかワークショップが出来なかったが、今年度は幸呼来さんに講師にきていただき、裂き織の体験をするワークショップの開催に向けて準備を進めている。過去には、南部鉄器の製造元などを取り上げていたが、ものづくりの方に偏り過ぎていたことから、一昨年コロナ前は、ジョブカフェいわてで若者の就業支援に取組んでいる方を取り上げるなど、違うアプローチもしている。
- 吉野委員長** 年間何名程度取り上げるのか。
- 指定管理者** コロナ前は3、2名取り上げていたが、コロナになってからは1名である。
- 吉野委員長** ヒューマンギャラリーの全面リニューアルをし、県産材を使った岩手らしい外観を作ったとのことだが、利用者の反応はいかがか。
- 指定管理者** これは、若者女性協働推進室から声をかけてもらい、岩手県の事業として、ヒューマンギャラリーと環境学習交流センターの木質化をしたものである。利用者からは非常にすっきりして展示が見やすくなったとか、木の香りがよいなど良い評価をいただいた。
- 吉野委員長** 木質化を広げる予定はあるのか。
- 指定管理者** 一旦これで終了となる。
- 吉野委員長** 使用した木材は不燃性のものか。防火上の工夫はしているのか。
- 武田副委員長** 建物の壁というわけではないため、不燃でなくてもよいと思う。小田島組☆ほ～前の木は壁と一体化しており、壁として見なされるため不燃である。ヒューマンギャラリーのものは設置という形であれば、備品の扱いとなるため、不燃でなくてもよいはずだ。

(指定管理者から評価項目③「入居施設間の有機的な連携」の実績等について説明)

【質疑応答】

- 武田副委員長** 安全管理マニュアル(第18版)についてだが、マニュアルの中には事件や災害については記述があるが、コロナのような感染症のクラスターが内部で発生した場合はどのような連絡体制になっているのか。入居施設内で、コロナが発生した場合、指定管理者ではどのように情報を把握しているのか。
- 指定管理者** 各入居施設でコロナが発生した場合、まずは管理事務室に情報をもらうようにしている。情報を把握しているのは、管理事務室のみとなる。しかし、6階の県民活動交流センターについては、仕切りがない事務室となっているため、県民活動交流センター内で情報共有をしている。また、その他の入居施設で発生した場合は、県庁の各所管課にも情報が提供されるようになっている。

コロナ陽性者が発生した場合の運用ルールについては、運営協議会で説明をした上で対応している。マニュアルについては、今後、若者女性協働推進室とも相談をしながら、検討をしたい。

武田副委員長 コロナのような感染症をマニュアル化するのは難しいと思うが、ここでうまくマニュアル化できれば、県内の公共施設などにおいても、対応策の手本になるのではないか。

(指定管理者から評価項目④「県民への情報提供(県内全域へのサービス提供)」の実績等について説明)

【質疑応答】

武田副委員長 アイナニュースを隔月で発行しているが、紙媒体をこのまま継続するのかという問題もある。配布先に、公民館や市役所などの公共施設やホテルなどはあるのか。

指定管理者 民間施設、県や市の公共施設問わず盛岡市内 60ヶ所に配布している。部数は 2,000部であり、その中には、ホテルのほか、クロステラス、大通りの内科医院、岩手銀行、本町通りのお蕎麦屋などがある。県の振興局にはトータルで 200部、県内の公立図書館には 1,000部配布している。

武田副委員長 3,000部程度発行しているようだが、残部は回収しているのか。

指定管理者 回収している。コロナ前は、足りなくなったので追加してほしいという依頼が店舗からあったが、コロナになってからは、20~30部配布して、20部以上回収することが多くなった。

武田副委員長 先ほどの説明でも QRコードを掲載して急な変更に対応しているとの話があったが、残部が発生しているという現状を踏まえ、紙媒体の発行自体を見直すことも必要なのではないか。部数を見直すとしても、3,000部程度だと、1,000部刷ろうが、大きなコストの削減にはならず、難しいと思うが、今後、考えたほうがいいのかと思う。

指定管理者 私たちとしては楽しみにしてくれている方もいるという思いもあるので、そことのバランスを考え、御指導をいただきながら、検討していきたい。

(指定管理者から評価項目⑤「適切な施設運営」の実績等について説明)

武田副委員長 安全管理マニュアルについてだが、東日本大震災のような災害のとき、どこに何人くらい避難させるのか、またどのフロアを誰が担当するのか決まっているのか。コロナのような感染症を考えると、うまく誘導しないと、どうしても 1階や 3階に人が多く集まってしまうことが予想される。この辺りの考えを聞きたい。

指定管理者 当施設は盛岡市の避難所に指定されている。東日本大震災のときのように全面的に施設が使えないときには、4階、5階、2階と段階的に人を受け入れていった。想定される災害の中で多いのが台風であるが、施設としては利用者がいる中で、電車が止まるなどの理由により、帰宅困難者が発生した場合は、JRと調整し、空いている部屋と入れる人数を確認しながら対応することとしている。台風など全面的に対応が必要でないものに関しては、当日の施設の利用状況を見ながら対応しているのが現状である。

武田副委員長 実際に災害が起きたときに、盛岡市の指示を待っていたら、対応が遅くなる。各階

の収容人数は運営メンバーで共有しておいたほうが良いと思う。

指定管理者 原則施設の定員がベースになると考えているが、コロナということもあるので、そういった点も考慮し、収容人数について内部の認識を再度徹底したい。

エ 委員による評価

(各委員がヒアリングの結果に基づき事前評価の内容を見直し)

オ 委員会による評価、意見交換

各委員の評価結果の集計に基づき、評価項目ごとの評価値について協議した結果、各項目とも「評価値4（概ね計画どおりの管理運営が行われている）」の評価となった。

カ 令和3年度指定管理業務の評価結果報告書（案）について

(事務局から資料2により説明)

(2) これまでの運営状況等について

(非公開により実施)

4 その他

(事務局からの提案事項はなし)

(質問等なし。)

5 閉会